

- 1 木や花をたいせつにし
美しいまちをつくろう
- 2 ともに学びあい
心やからだをきたえよう
- 3 明るい家庭をつくり
若い力を育てよう
- 4 よく働き
豊かなくらしをともにしよう
- 5 協力し助けあい
住みよいまちにしよう



感染リスクの低い公共交通を利用して

みんなでマナーを守って出かけよう

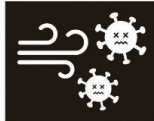
問い合わせ 都市整備部管理課交通担当

利用者がみんなを守る3つのマナー

公共交通を利用する場合は、次の3つのマナーを守りましょう。また、せきやくしゃみは手で押さえず、上着の内側や袖で覆う「せきエチケット」も大切です。

**1 常に
しっかり
換気!**

これで(広義の)「空気感染」
リスクはほぼゼロ!



**2 「目・鼻・口」は
何が何でも
触らない!**

これで「接触感染」リスクは
ほぼゼロ!



**3 お静かに…。
話すなら
小聲で「マスク」!**

これで「飛沫感染」させる
リスクはほぼゼロ!



出典 (一社)日本モビリティ・マネジメント会議

事業者も感染防止対策を充実

市内の公共交通事業者は、従業員等のマスク着用、乗務前の体調確認、運転席周りのビニールカーテン設置、密集しやすい前方の座席封鎖、消毒の実施、換気扇・窓開け等による車内換気など、さまざまな感染防止対策を行って運行しています。



△飛まつ感染防止シート
京王自動車多摩西線



△密集回避の座席封鎖
東京都交通局



△半自動ドアの自動開扉
東日本旅客鉄道(株)



△運転席のビニールカーテン
西武バス(株)



△バス車内の消毒
西東京バス(株)

感染リスクの低い公共交通

皆様のご協力のおかげで、電車、バス、タクシーなどの公共交通では、新型コロナウイルスのクラスターは発生していません(11月2日現在)。また、公共交通を利用することで感染する確率は、最も感染が拡大していた時期(3月下旬～4月上旬)でも、約1万回に1回(0.0097%)でした。※(公社)土木学会「新型コロナウイルスに関する行動・意識調査」(2020年)

子どものインフルエンザワクチン接種費用の一部助成

新型コロナウイルス感染症と季節性インフルエンザの同時流行を防ぐため、子どもがインフルエンザワクチンを接種した費用の一部を助成します。詳細は市ホームページ(記事ID…27111)をご覧ください。

対象 接種日において市の住民基本台帳に登録されている1歳～中学3年生

助成対象接種期間 令和2年10月1日～3年1月31日

助成回数 期間内に1人1回(他の制度による同種の補助を受けた場合は対象外)

助成金額 上限2,000円

申請方法 3年3月31日(必着)までに申請書(市ホームページからダウンロード可)に必要事項を記入し、接種を実施した医療機関が発行した領収書(接種者の氏名、予防接種の種類、金額が分かるもの)の原本等の必要書類を添付して郵送〒198-0042東青梅1-174-1健康センターへ

問い合わせ 健康センター ☎23-2191

小・中学校の蛇口をレバー式等に交換します

市内の小・中学校の手洗い環境を整備するため、水道蛇口をレバー式等に交換します。

この取り組みにより、児童、生徒が手指で直接水道蛇口に接触する機会を減らすことができ、新型コロナウイルス感染症予防が期待できます。

問い合わせ 教育総務課施設係



青梅市立総合病院での新型コロナウイルス感染症の院内感染・クラスター発生を受けて

このたびは、当院において発生した新型コロナウイルス感染症の院内感染・クラスターにより、入院患者さんおよび病院職員に感染者が発生し、患者さんご家族をはじめと多くの方々に心配と迷惑をおかけいたしました。大変申し訳ございません。8月26日の院内感染発生後、2つの病棟でクラスターが、その後さらに別の2つの病棟で院内感染が発生し、これまでに感染された入院患者さんは26人、職員は43人にのぼります。感染された患者さんのおかげで、6人の方が感染後にお亡くなりになってしまいました。亡くなられた患者さんのご冥福を心よりお祈り申し上げます。

当院にご入院いただき、原疾患の治療に専念していらした経過においてこのような結果となり、病院長として断腸の思いです。感染により面会が制限される中、ご逝去された患者さん、ご家族のご心中を拝察し、心よりお詫び申し上げます。

また、10月10日から感染拡大防止のため「緊急事態措置」として、一部病棟の閉鎖、入院停止、予約外診療停止、救急外来停止といった措置をとらざるを得ない状況となり、入院治療が終了しているにもかかわらず退院、転院ができない患者さん、当院へ入院できずに他院へのご紹介となっている患者さんなど、多くの方々が感じておられる「不便」「ご不安」に際してもお詫び申し上げます。地域の中核病院としての機能を果たせていない現状に忸怩たる思いです。

現在は西多摩保健所、東京都実地疫学調査チーム、東京都感染対策支援チーム、東京都看護協会の支援を受け、院内の感染対策を一から見直し、感染疑い者の早期発見、早期対応、職員への感染教育の再度の徹底など、職員一丸となって感染収束と通常診療の再開に向けて取り組んでおります。

厳しい状況が続く中で、多くの方々より感染対策資料の提供や励ましのメッセージなどを頂いております。職員一同を代表して、あたたかいご支援に感謝を申し上げます。

青梅市立総合病院院長 大友建一郎

※記事の内容は11月4日現在のものです。

※最新情報は当院ホームページでお知らせしています。

問い合わせ 総合病院管理課 ☎22-3191